

令和2年度

施政方針(概要)

※全文は、市ホームページでご覧になれます。

那覇市 施政方針 R2

検索



施政方針の基本姿勢

令和の時代を迎えて

令和という新時代が幕を開けました。令和には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ梅の花のように、明日への希望を咲かせる」という思いが込められているとのこと。

文化が生まれ育つ。明日への希望を咲かせる。そのためには、世の中が平和であり続けなければなりません。「戦争のない時代」とされた平成に続き、令和も平和で安らかな時代になることを切に願っております。

さて、今年は戦後75年の節目を迎えます。時の経過と共に歴史の風化が危惧される中、平和の尊さを、子どもたちにもしっかりと伝え、未来につなげていかなければなりません。

平和への願いが託された、令和という新時代の幕開けに、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。オリンピックは、スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与することから、平和の祭典とも言われています。

オリンピックの開会に向け、遠くギリシャから聖火がリレーされ、国内を巡ります。沖縄では首里城を出発し、その後、新都心公園や国際通りを駆け抜け、県内各地に向かいます。

聖火リレーに平和を願う想いを込めて、沖縄から全国へ、そして世界へ、その想いをつなげていきたいと考えております。

多様性を認め合う寛容な社会

ラグビーワールドカップ2019では、強豪国を次々と倒す日本代表の活躍に、日本中が感動の渦に包まれました。

とりわけ印象的だったのは、代表選手としてプレーする、多くの外国籍選手の存在です。多国籍であっても、文化・国籍など様々な違いを乗り越え、ワンチームとしてスクラムを組み、一つの目標に向かって進んだことが、すばらしい結果を生み、多くの感動を呼んだのだと思います。

本市でも、海外からの観光客や定住外国人の増加により、普段の暮らしの中で外国人と接する機会が多くなりました。人口減少・少子高齢化の本市において、

社会を支える新しい力となっていくことも期待されています。これからは来訪者としての交流の視点だけでなく、生活者としての共生の視点も備えなければなりません。

私たちの社会は、国籍のみならず、人種や性別、世代、さらには障がいの有無や多様な性、経済的な基盤の違いなど、様々な背景を持つ人々で構成されています。これらの違いや立場を乗り越え、より良い社会を共創していく必要があります。

一人ひとりの多様な個性や立場を尊重し認め合う、寛容な社会を築いてまいります。

協働によるまちづくりの深化

本市で協働という言葉が使われ始めて20年が経ちました。第3次総合計画で初めて提唱され、当時耳慣れなかった協働が、今では行政や市民、地域の中で多くの方々にしっかりと受け止められています。

この20年間、本市における協働は、職員の意識改革による市民との信頼関係構築の土台づくり、頑張る市民を見える化するための協働の基盤づくり、協働を点から線に、線から面に広げる、これらの各ステージを積み重ねてきました。

そして本市は、いよいよ「協働のNEXTステージ」へと進んでまいります。次の20年を見据え、より良い協働のために、最も身近な自治会をはじめ、校区まちづくり協議会の活動の推進など、総合計画に掲げる「みんなでつなごう市民力」をスローガンに実効性のある協働を創り上げてまいります。

改めて感じることは、これからのまちづくりには、市民一人ひとりが主役となり、市民と行政が共に手を携える協働が不可欠であるということです。私の市政運営の土台となるものは、一貫して「協働によるまちづくり」であります。

引き続き、豊かで活力ある地域社会の実現を目指し、邁進してまいります。

子どもたちの笑顔を求めて

這えば立て 立てば歩めの親心

この言葉には、子どもの成長を楽しみに待ちかねている親の様子が見てとれます。我が子に向けられるその温かな眼差しを、私たち大人は、未来を生きるすべての子どもたちに注いでいかなければなりません。

子どもの貧困対策の推進については、法改正により、子どもの「将来」だけではなく「現在」に目を向けるなど、目的および基本理念の充実が図られました。子ども達の現在および将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう取り組まなければなりません。

また、好調な県経済などを背景に、女性の就業機会が増えたことなどにより、保育需要が高まりました。保育施設の整備により、着実に保育定数の拡大を図っております。

幼児教育・保育の無償化により、経済的な支援の範囲が広がりました。また、本市はすべての公立幼稚園が認定こども園へと移行し、幼保の分け隔てなく、教育・保育を一体的に行っております。さらに、利用が広がってきた、ら・ら・らステーションを通して、小さな声も拾い上げてきました。

子どもの貧困対策を総合的に推進するとともに、待機児童解消に向けて、引き続き、保育施設の整備およ

び保育士の確保対策に全力を挙げて取り組んでまいります。また、妊娠期から保育・幼児教育にわたる切れ目のない支援の継続と、さらなる質の向上、充実を図ります。

私の重要施策の一つである子ども政策については、従前にも増して全力を傾け、子どもの笑顔があふれるまちづくりを進めてまいります。

文化と観光の融合による振興

沖縄県の入域観光客数は念願の1000万人を超えました。沖縄観光のさらなる飛躍に向けては、専門家からは、沖縄の独自色をより強く打ち出していくことなどが、提起されております。

観光振興への示唆に富む『新・観光立国論』を著したデービッド・アトキンソン氏は、観光立国には「気候」「自然」「文化」「食事」の四要素が必要であると述べ、日本は全ての要素を持ち合わせていると評価しています。

私は、亜熱帯の気候や自然、琉球王朝の色彩を今に伝える独特の文化や料理に恵まれる沖縄こそ、優位性があると考えています。

本市が関わる『琉球王国時代から連続と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』が、沖縄県から初めて日本遺産に認定されました。

また、現在、那覇文化芸術劇場「なはーと」の建設工事や、沖縄の食の魅力発信拠点施設として第一牧志公設市場の建替工事が進んでいます。

飛躍の可能性を秘めたこれらの資源を活用し、独自の文化芸術と観光産業を融合させ、付加価値を付けていく必要があります。相乗効果を生み出し、双方の育成・振興・発展を図り、本市の魅力を高めてまいります。

基盤整備から経済振興へ

沖縄県と国内外を結ぶ人流・物流の拠点として、極めて重要な役割を果たしている那覇空港では、まもなく第二滑走路の供用が開始されます。

県内最大級の那覇港総合物流センターは、空港に近い利点を生かし、海と空の連携にも取り組み、将来はアジア向けの物流ハブを目指しています。

延長開業したゆいレールは、沖縄自動車道との結節により乗り換えが促進され、那覇都市圏の慢性的な交通混雑の緩和や、新たな人の流れが生まれることが見込まれています。

このように、経済振興の礎を成す基盤整備は着々と進んでいます。本市においては、南北を走るゆいレールに対し、東西の交通軸を成すLRTの整備に期待が高まっています。

人流・物流の拠点や基盤をつくり、相互に連携し、効率化させることで、本市経済への波及効果が生まれるものと考えております。

快適な交通環境を整備し、まちの魅力を高め、また、成長産業分野への対応力を強化することで、本市の経済を牽引する企業や人材の集積を図り、自立的な経済基盤を拡大させてまいります。

首里城再建支援

首里城火災の発生当日、まだ白い煙が立ち込める中、跡形も無く崩れ落ちた正殿の前に、悲しみと無念さで、

しばらく突然と立ち尽くしました。この喪失感は、今なお埋まることはありません。

首里城が私たちにとっていかに大きな存在であったかを再認識するとともに、一日も早く、あの朱色に彩られた首里城の姿を再び目にする喜びを、多くの方々に分ち合いたいとの思いを強くいたしました。

首里地域は、首里城のみならず、いにしへの王府を彩る歴史文化遺産が数多く存在しております。歴史と文化が薫る首里の将来を展望する上で、これらが一体的に整備されなければならないものと考えております。

「七転びくるといひやみかち起さるゝ

わしたくぬ沖縄 世界に知らさゝ

私たちうちなーんちゅは、これまで幾多の困難な状況にあっても、ひやみかち節にあるように、何度も起き上がってきました。

首里城の再建は長い道のりとなりますが、皆様と共に「ひやみかち起さるゝ」と、心を一つにして歩みを進めてまいります。

SDGs 持続可能な開発目標

2015年9月、国連サミットで2030アジェンダが採択されました。「誰一人取り残さない」というSDGsの基本理念の下、人間、地球、繁栄のための行動計画が示されております。

国も強く推進しており、企業や投資家、経済全体で取り組む社会の枠組みとなりつつあり、今日、その裾野は確実に広がっております。

本市が第5次総合計画に掲げた「めざすまちの姿」は、SDGsの理念と合致するものであり、総合計画を実行することが、SDGsの着実な推進に繋がるものと考えております。

「誰一人取り残さない」という理念を改めて心に刻み、SDGsにしっかりと向き合っております。全庁的な推進体制を構築するとともに、未来への思いを共有するため、シンポジウムを開催するほか、就職氷河期世代の職員採用に門戸を開くなど、持続可能な社会の実現に向け、最初の一步を踏み出してまいります。

災害に強いまちづくり

気候変動に関する専門家は、急速に進む地球温暖化に強い危機感を抱き、このままでは豪雨や洪水、干ばつなどの異常気象のリスクが高まると警鐘を鳴らしています。

現在、世界各地で、森林火災や噴火、地震など、自然災害が多発しています。我が国においても昨年の台風19号や九州北部豪雨など、想定を遙かに超える甚大な被害があり、今もなお避難生活を余儀なくされる方々がおられます。

災害には日頃からの備えが大切です。本市の総合防災訓練では、毎年新たな想定を加えながら、対象範囲を拡大し実施しています。地域で活動する防災士に加え、新たに、専門的知見を有し、防災・危機管理の中心的な役割を担う、地域防災マネージャーを養成、確保し、災害対応力を高めてまいります。

防災に関するハード面の整備を進めるとともに、訓練や市民参加型の防災体験を通じ、意識啓発や災害の知識、発災時の判断・行動の教育など、防災意識の向上のための取組を進めてまいります。

予算編成

一般会計予算は1575億9千7百万円で、対前年度比107億8千3百万円、7.3%の増。

歳入予算では、好調な県内景気と様々な徴収努力による市税の増額、さらに、地方消費税交付金や国庫支出金、県支出金などで増額を見込む一方、地方特例交付金や分担金および負担金で減額を見込んでいます。

歳出予算では、子ども政策分野や経済分野の重点事業、教育・福祉分野の充実事業などのほか、新文化芸術発信拠点施設建設や学校校舎建設、市営住宅整備など各分野へ幅広く予算を計上しています。

約29億2千2百万円の収支不足が生じていますが、財政調整基金から、同額を取り崩して対応します。

企業会計を除く特別会計予算は、総額約715億6百万円で、対前年度比約1億4千8百万円、0.2%の減。特別会計予算の減額は、農産物市場地区再開発の終息による市街地再開発事業特別会計の減額によるものです。国保特会の財政赤字については、引き続き一般会計からの政策的な繰り入れを行います。

主要事業

多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA

小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる

協働によるまちづくり

市内全域での校区まちづくり協議会の設立を目指し、新たに3校区程度の協議会設立を支援

・地域の人材とニーズをマッチングさせる那覇市人材データバンク事業の推進

・小緑支所の令和4年度完成に向け、仮支所への移転や現支所の解体工事などへ着手

・真和志支所は、地域の核となる施設として、中央公民館・福祉施設などとの複合化に向けて、計画を策定

地域の力が重なる安全安心のまちづくり

消費者被害の未然・拡大防止に向けた啓発活動および消費者教育、相談体制の充実・強化

・外国人が安全安心に暮らせるよう、住民登録や医療、子育てなど生活に係る一元的な相談窓口を新設

・専用のアプリを活用した、広報紙などの多言語翻訳・消火力強化のため、「(仮称)小緑南出張所」および「(仮称)識名出張所」の建設に向けた用地取得の推進

・災害や気象情報などの配信、避難所運営支援、被害情報の一元管理を行う防災情報システムの整備

・防災士を育成し、新たに、防災・危機管理の専門的知見を有する地域防災マネージャーを養成

・大規模災害に備え、水や食料などの災害備蓄の確保や外国人に対応した多言語防災リーフレットを整備

交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり

・戦後75年の節目を迎えるにあたり、沖縄戦の実相や平和の尊さを継承し、平和を希求する想いを発信

・旧那覇飛行場用地問題の解決に向け、「ともかぜ振興会館」の供用および「(仮称)大嶺コミュニティ、



次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

・市民や観光客に安定した食の提供を行うため、食品等事業者に対し、HACCPの普及推進を強化
・妊娠を希望する女性などに対し、風しん抗体検査を無料で行い、ワクチン接種を推奨
・結核の早期発見と感染拡大防止のため、定期健康診断に係る費用などを支援

衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり

・生活習慣病重症化予防のため、医療専門職による健康管理に関する適切な指導を実施

・市立病院の建替えについて、災害に強く安全安心な医療環境を提供するため、病院当局と協力し整備促進

身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり

・AIを活用した特定健診の受診を勧奨

・関係機関による職場での健康づくりや「食の健康づくり応援団」の充実・強化

・2歳児歯科健康診査の継続と、安全面などに配慮した全小中学校でのフッ化物洗口の推進



すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり

・健康ウォーキング大会などを通して、市民が主体的に健康づくりに取り組めるよう継続的に支援

・関係機関による職場での健康づくりや「食の健康づくり応援団」の充実・強化

・2歳児歯科健康診査の継続と、安全面などに配慮した全小中学校でのフッ化物洗口の推進

・貧困問題に起因するこどもたちの様々な課題に対し、支援員を配置し、学校や地域、企業などとの連携を強化し、支援の和を広げる。

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

・屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援

・災害時に避難行動要支援者の避難を迅速に行うための避難支援体制の構築に取り組む。

・医療、介護などのサービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの充実と24時間体制の訪問看護介護の整備

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

・屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援

・貧困問題に起因するこどもたちの様々な課題に対し、支援員を配置し、学校や地域、企業などとの連携を強化し、支援の和を広げる。

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

・屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援

・災害時に避難行動要支援者の避難を迅速に行うための避難支援体制の構築に取り組む。

・医療、介護などのサービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの充実と24時間体制の訪問看護介護の整備

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

・屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援

・貧困問題に起因するこどもたちの様々な課題に対し、支援員を配置し、学校や地域、企業などとの連携を強化し、支援の和を広げる。

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

・屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援

・災害時に避難行動要支援者の避難を迅速に行うための避難支援体制の構築に取り組む。

・医療、介護などのサービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの充実と24時間体制の訪問看護介護の整備

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

・屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援

・貧困問題に起因するこどもたちの様々な課題に対し、支援員を配置し、学校や地域、企業などとの連携を強化し、支援の和を広げる。

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

・屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援

・災害時に避難行動要支援者の避難を迅速に行うための避難支援体制の構築に取り組む。

・医療、介護などのサービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの充実と24時間体制の訪問看護介護の整備

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

・屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援

・貧困問題に起因するこどもたちの様々な課題に対し、支援員を配置し、学校や地域、企業などとの連携を強化し、支援の和を広げる。

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

・屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援

・災害時に避難行動要支援者の避難を迅速に行うための避難支援体制の構築に取り組む。

・医療、介護などのサービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの充実と24時間体制の訪問看護介護の整備

・介護保険や老人福祉に関する次期事業計画「第8次なは高齢者プラン」の策定

子育てが楽しくなるまちづくり

・待機児童の解消に向け、保育所などの施設整備、潜在保育士の復職支援などの事業を実施し、保育士確保に努める。

・年収360万円未満相当世帯の3歳から5歳児、また所得に関わらず、第3子以降の子どもの保育施設などでの主食費の減免措置

・子どもと家庭に関する訪問相談、関係機関と連携した児童虐待の未然防止および早期発見・対応

・学校以外の場所における学びの機会の格差を解消するため、スタディークーポンを活用した事業を実施

自らの力で未来を拓く子どもたちを応援するまちづくり

・全中学校区に子ども寄添支援員を配置し、児童生徒の置かれた環境を確認し、学校や行政などの関係機関との連携強化

・教員の「働き方改革」を進めるため、部活動指導員を各中学校に配置するなど、学校教育活動の充実や部活動の質的な向上の推進

・児童生徒の県外大会への派遣支援の拡充を図るため、必要保護世帯に対する航空運賃を全額助成し、助成対象を中学校クラブチームや私立小中学校の児童生徒に拡大

・若狭小学校校舎や垣花小学校体育館の改築工事に着手し、引き続き、学校施設の改築などを推進

生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり

・新たに開館する那覇市人材育成支援センター「まいまいNAHA」で、観光産業分野などで活躍できる人材を育成し、住民の学習・交流活動などを支援

・子どもたちの安全安心な居場所づくりのための、放課後子ども教室の充実

・地域・学校連携施設を地域の人々をつなぐ場として提供するため、ICTを活用し利便性向上に取り組む。

郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり

・市固有の文化を継承するとともに、日本遺産を構成する有形・無形の文化財を国内外へ発信

・貴重な文化財を次世代に継承するため、琉球国王尚家関係資料の継続的な修理

・急増する来訪者のニーズに対応するため、識名園などの環境整備

・首里城火災後の首里のまちづくりに向け、周辺文化遺産などを含めた計画となるよう、国や県と連携強化

・那覇文化芸術劇場「なはーと」建設の推進

ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

・新文化芸術発信拠点施設整備事業

・病院事業債貸付金（那覇市立病院建替え事業等）

・移動支援事業（重症心身障害児通学分）



ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

・新文化芸術発信拠点施設整備事業

・病院事業債貸付金（那覇市立病院建替え事業等）

・移動支援事業（重症心身障害児通学分）

・中学校部活動指導員配置事業

・那覇市防災情報システム整備事業

・多言語防災リーフレット

・LRT導入推進検討事業

・外国人一元的相談窓口

・住民異動受付総合案内サービス導入事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業

・SDGs推進事業



令和2年度 主な事業一覧 (単位:千円)

●子供の貧困緊急対策事業	153,398
●那覇市スタディークーポンモデル事業	11,316
●主食費減免事業	18,118
●沖縄の食の魅力発信拠点整備事業	1,050,580
●那覇市IT人材育成支援事業	1,792
●東京2020オリンピック・パラリンピック関係事業	11,140
●新文化芸術発信拠点施設整備事業	9,445,785
●病院事業債貸付金（那覇市立病院建替え事業等）	1,583,100
●移動支援事業（重症心身障害児通学分）	8,240
●中学校部活動指導員配置事業	10,583
●那覇市防災情報システム整備事業	173,200
●多言語防災リーフレット	9,760
●LRT導入推進検討事業	3,607
●外国人一元的相談窓口	8,962
●住民異動受付総合案内サービス導入事業	36,720
●SDGs推進事業	1,081

結びに 高い志と熱意で市政を

20年ぶりに紙幣を刷新するとの発表がありました。五千円札の肖像画には、津田塾大学の創始者で、日本の女子教育の先駆者と言われる、津田梅子さんが用いられます。教育現場に身を置いた私にとっても、尊敬する教育者が選ばれたことは、大変誇らしく思います。

彼女は、「高い志と熱意を持ち、少数だけでなく、より多くの人々との共感を持てれば、どんな弱い者でも事を成し遂げることができるでしょう」という言葉を残しています。

市長に就任して5年間、「市民との対話」を旗印に掲げて進んでまいりました。これからも常に高い志を持ち、市民とひざを交え、多くの人々に共感の輪を広げ、笑顔広がる元気なまちNAHAの実現を目指してまいります。

市民の皆様、並びに議員各位のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。私の施政方針の結びの言葉といたします。

いっぺー にふえーでーびる。

那覇市長 **城間 幹子**

お問い合わせ 企画調整課 ☎ 862-9937

10回目を迎える読売巨人軍春季那覇キャンプの環境整備と支援の継続

・市を訪れる国内外の観光客を対象とした夜型観光コンテンツなどの周知

・首里城公園を出発する東京オリンピック聖火リレーが、盛況かつ安全に実施されるための取組

様々な産業が集い、育ち、ひろがるまちづくり

・第2クルーズ船バースなどの整備やクルーズ船寄航誘致を支援

・市内の起業家や中小企業と投資家などとのマッチングの場を設け、資金調達企業支援を促進

・那覇市独自の観光・地域資源を活かした新たな商品やサービスの企画・開発を行う企業を支援

・市内中小企業・小規模事業者の経営基盤強化のため、各種セミナーの開催、および企業の実情にあった専門家の派遣などの支援

・伝統工芸の担い手育成のため、染物や織物の産地拠点施設の整備支援と、その魅力発信

・活気ある水産拠点の形成をめざした、漁業所得の向上や経営基盤の強化



産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり

・なは産業支援センターなどを活用した、気軽に創業や就業に関する相談ができる環境づくり

・情報技術や、論理的思考を身につける人材を育成するため、小学生対象のプログラミング講座などの実施

・若年層の失業率、定着率の改善を目指した、小中学生へのキャリア教育支援を実施

中心市街地を活かしたまちづくり

・頑張るマチグラー等支援基金を活用した、商店街が行う誘客事業や利用促進を図るPR事業などの支援

・沖縄の食の魅力発信拠点として、「食」を中心とした回遊性の向上と更なる観光客の誘客促進を図るため、

第一牧志公設市場の再整備に引き続き取り組む。

自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA

・大規模な災害時に発生する廃棄物の処理を迅速かつ適切に進めるための、災害廃棄物処理計画の策定

・外食事業者を対象に「食べきり協力店登録制度」を導入し、廃棄物の排出抑制に取り組む。

省エネを実践し、資源が循環するまちづくり

・大規模な災害時に発生する廃棄物の処理を迅速かつ適切に進めるための、災害廃棄物処理計画の策定

・外食事業者を対象に「食べきり協力店登録制度」を導入し、廃棄物の排出抑制に取り組む。

自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり

・市民ニーズに応じた自然観察会や清掃活動を行い、引き続き、環境啓発に取り組む。

・首里、壺屋地区において、赤瓦屋根や石積みなどへ継続して助成し、歴史・文化に彩られた那覇の景観向上に取り組む。

・民間活力を活かしたPark・PFI制度の活用を視野に入れ、利用者の安全安心を確保するため、遊具などの適切な管理および更新を実施

・市街地の緑化を促進することで、みどりに親しみ、魅力溢れるまちを目指す。

暮らしで良し歩いて楽しい快適なまちづくり

・農連市場地区の保育所や市営住宅を供用開始し、うれんプラザを核とする賑わい空間の創出を図る。

・まちづくりを支える公共交通軸の観点から、LRTなどを中心市街地、真和志、新都心の各地域を結ぶ公共交通軸として位置づけ、交通事業者との合意形成を図る。

・ゆいレールは、輸送力増強の観点から、3両編成に向け整備に取り組む。

・各市営住宅の建替工事を継続し、真地市営住宅は高齢者福祉施設を併設した実施設計を実施



災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり

・都市計画道路について、交通渋滞の緩和や快適な歩行空間の確保など、体系的な道路網の整備を推進

・老朽化している甲辰橋の架け替えを推進し、生活道路の役割を担う橋梁についても、調査点検などを実施

・水道水の安定供給のため、引き続き豊見城配水池建設を進め、市内一円において水道施設の耐震化を実施

・公共下水道の整備を進め、ストックマネジメント計画に基づき、計画的・効率的な修繕・改築に取り組む。

那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり

・都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づき、誰もが安心して、移動しやすいまちづくりを推進するため、主要渋滞箇所における対策検討調査に取り組む。



市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う

市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり

・住民異動における申請書への記入を省略するなど、手続きの簡素化が図られるよう支援システムを導入

・市税や保険料をいつでもどこでも納付ができるスマホ収納を新たに導入

・RPAによる業務効率化を進め、AIとのチャット形式により情報を容易に入手できるサービスを導入

・技術部門の統括機能をさらに高めるため、技術管理課と地籍調査課を「技術総務課」に統合

効率的で効果的な行財政運営

・「誰一人取り残さない」というSDGsの理念にしっかりと向き合い、SDGsに対する機運の醸成に向け、シンポジウムを開催

・税収の維持確保に努めるとともに、ファシリティマネジメントを推進、施設整備における民間活用を検討

・令和3年の市制施行100周年に向け、各種記念事業の企画立案を進め、演劇公演などのプレイベントを実施